

<指導事例3> 国語総合「古文を読んで脚本に書き換える事例」

【学習活動の概要】

1 単元名 「児のそら寝」を朗読劇の脚本にしよう

2 単元の目標

- ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて詳述をしたりする。
(読む能力)
- ・文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解する。
(知識・理解)

3 取り上げる言語活動と教材

- (1) 言語活動 文章を読んで脚本にしたり，古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- (2) 教材 『宇治拾遺物語「児のそら寝」』

4 単元の具体的な評価規準【P.35資料1】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・文脈を捉え，語句や表現に注意して，書き手の考えなどを過不足無く理解しようとしている。 ・読む必要に応じて，文章の一部を詳述しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈を捉え，語句や表現に注意して，書き手の考えなどを過不足無く理解している。 ・読む必要に応じて，文章の一部を詳述している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文語のきまりを理解している。

5 単元の指導計画

(1) 学習活動

本単元では「児のそら寝」を読解し，テキストを朗読劇の脚本に書き換える。

(2) 言語活動に関する指導上の留意点

テキストを脚本に書き換えることにより，文章の内容や表現を一層深く理解できることに気付かせる。

次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読し，歴史的仮名遣いに気付く。 ・ペアで音読を確認し合う。 ・ペアで交互に，古文と，対応する現代語訳と 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いや現代語と古語とで語義の異なる語に気付かせる。 ・指導者が原文を読み聞かせるな

	<p>を音読する。</p>	<p>どの工夫をし、内容を捉えやすくする。</p>
<p>【評価規準】 ・文語のきまりを理解している。 (知識・理解)</p> <p>【評価方法】 ・「記述の確認」ノート</p>		
<p>第2次</p>	<p>・現代語訳を活用しながら、朗読劇の脚本にリ ライトする。</p>	<p>・説話、比叡山については便覧や教科書の説明などを用いてイメージをもたせる。 ・会話部分だけではなく、地の文も可能な限り会話に直させる。</p>
<p>【評価規準】 ・簡潔に述べられた本文の情景や心理を、脚本の必要に応じて言葉で表現しようとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>【評価方法】 ・「記述の点検」【P.37資料2】</p> <p>【評価規準】 ・簡潔に述べられた本文の情景や心理を、脚本の必要に応じて言葉で表現している。 (読む能力)</p> <p>【評価方法】 ・「記述の確認」【P.37資料2】</p>		
<p>第3次</p>	<p>・朗読劇を発表する。 ・それぞれの朗読について相互評価し、どのような内容理解が反映されているかを聞き取る。 ・基本的な語彙の確認を確認テストを用いて行う。</p>	<p>・評価シートを用いて他のグループの工夫した点を積極的に評価させる。</p>
<p>【評価規準】 ・古語の意味を理解し、物語の設定や登場人物の行動に込められた価値観を理解し脚本にしたり、朗読劇を聞いたりしようとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>【評価方法】 ・「記述の点検」【P.41資料3】</p> <p>【評価規準】 ・古語の意味を理解し、物語の設定や登場人物の行動に込められた価値観を理解し脚本にしたり、朗読劇を聞いたりしている。 (読む能力)</p>		

<p>【評価方法】</p> <p>・「記述の確認」【P.41資料3】</p> <p>【評価規準】</p> <p>・文語のきまりを理解している。 (知識・理解)</p> <p>【評価方法】</p> <p>・「記述の確認」【P.42資料4】</p>
--

6 第2次の指導計画 (1時限中の1時限目)

学習段階	学習内容	学習活動	指導の留意点と評価の実際
導入	本次の目標を理解する。	①本次の目標と言語活動について確認する。	①・評価の観点を基にして、本次の目標を示す。 ・「おどろく」等の語義を確認させる。
展開	現代語による朗読劇の脚本をグループで創作する。	②脚本を創作する。 ・前半が脚本化してあるワークシートに続け、区切りごとに創作する。 ・役割を決めて前半を音読する。 ・せりふの読み方を指定するト書きを工夫する。 ・せりふによって心情を伝えるために、補足の必要な内容を考える。 ③朗読劇の練習をする。	②・この説話に描かれている人間理解の在り方が伝わるように創作させる。 ・クラスを6, 7人のグループに分け、グループ内で相談して脚本化させる。 ・前半の脚本と、後半の「区切り」を設定してあるワークシートを教材として用意し、グループ内で役割を決めて音読させる。 ・会話文を直訳するだけでなく、心情が伝わるようにせりふに言葉を補わせる。 ・心情変化が伝わるようにト書きとせりふを工夫させる。 ・机間指導によって明らかにすべき内容が話し合われていないグループにはヒントを与える。
終結	学習のまとめと第3次の学習内容の確認をする。	④第3次の相互評価に用いるシートに、自分	④・相互評価シートを配布し、自分たちのグループの理解を再確認さ

<p>る。</p> <p>確認テストの予告をする。</p>	<p>たちのグループの表現意図等を記載する。</p>	<p>せ、朗読劇の発表への意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループの脚本を提出させる。 <p>★【P.37資料2】の「記述の点検」「記述の確認」に基づいて評価する。</p>
-------------------------------	----------------------------	--

7 指導事例と学習指導要領の関連

本事例の指導事項は、次のとおりである。

イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて詳述をしたりする。
「国語総合」内容「C読むこと」の(1)

この指導事項を指導するのにふさわしいと考えた言語活動は次のとおりである。

ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
「国語総合」内容「C読むこと」の(2)

【言語活動の設定理由】

文章を脚本にして発表をするという活動には、脚本化することによる内容理解の深まりという効果がまず期待できる。また、簡潔な表現の文章を、言葉を補って他者に詳しく説明する際には、読み手がその文章をどのように理解したかということが如実に表れる。そのため、他のグループの発表を評価する際に、自分たちの脚本と比較して、その内容理解がどの程度のものであったかを生徒自身が実感できるという効果も期待できる。以上の2点から、文章を読んで脚本化するという言語活動は、上記の指導事項「文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて詳述をしたりする」を達成するために効果があると考えた。

【資料 1】「具体的な評価規準の設定例（読む能力）」

【学習指導要領】 (1) 次の事項について 指導する。	「読む能力」に関する 評価規準の設定例（15項目）	重 点 化	言語活動における 具体的な評価規準の設定例
ア 文章の内容や形態 に応じた表現の特色に 注意して読むこと。	a ① 文学的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 説話文学における人間理解の 在り方と具体的なエピソードと の関係を読み取っている。
	a ② 論理的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 該当無し
	a ③ 実用的な文章について、内 容と、形態に応じた表現の特色 とを理解して文章を読んでいる。		・ 該当無し
イ 文章の内容を叙述 に即して的確に読み取 ったり、必要に応じて 要約や詳述をしたりす ること。	b ① 文脈をとらえ、語句や表現 に注意して、書き手の考えなど を過不足無く理解している。	○	・ 古語の意味を理解し、物語の 設定や登場人物の行動に込めら れた価値観を理解し脚本にしたり、朗読劇を聞いたりしている。
	b ② 読む必要に応じて、文章を 要約している。		・ 該当なし
	b ③ 読む必要に応じて、文章の 一部を詳述している。	○	・ 簡潔に述べられた本文の情景 や心理を、脚本の必要に応じて 言葉で表現している。
ウ 文章に描かれた人 物、情景、心情などを 表現に即して読み味わ うこと。	c ① 表現に即して、登場人物の、 行動や性格、ものの見方、感じ 方、考え方、ひいては生き方を 的確に捉えて、人物個々の心情 の変化や、人物相互の関係の変 容を読み取っている。		・ 表現に即して、登場人物の行 動やものの見方を的確にとら え、児の心情の変化を読みとっ ている。
	c ② 情景が、人物の心情の反映 や象徴、物事が起こる予兆など として設定されていることを理 解し、表現に即して、人物の言 動、置かれている状況を理解す る手がかりとしている。		・ 物語の面白さや登場人物の心 情をよりよく理解するために、 児を取り巻く情景・時間などの 設定の効果を考えている。
	c ③ 登場人物の心情に思いをい たし、自らの生き方と重ね合わ せて共感したり反発したりして いる。		・ 「僧たち」「児」それぞれの立 場になって、そのときの心情を 考え、これを脚本に反映させて いる。
	d ① 文章の組立て等の構成と、 考えの進め方や内容の推移等の		・ 説話として読者の共感を誘う 展開の工夫について確かめ、脚

	展開を確かめている。	本に反映させている。
エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	d ② 文章の内容や表現の仕方について、規準や根拠を明確にして判じている。	・場所や時間の設定がエピソードにおいて効果的であるかどうかを判定している。
	d ③ 段落に注目し、書き手の思考の流れから強調点を読み取り、執筆動機や表現意図を考えている。	・該当なし
オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。	e ① 文学的、論理的、実用的文章等幅広い形態の、多様な内容の文章を、様々な方法で探して読んでいる。	・「説話」というジャンルに即する作品を読み、出典と粗筋を記した読書案内を執筆している。
	e ② 本や文章によって得た情報を選択、評価、加工している。	・「説話」に込められた人間理解、世界観について具体的な作品と関連付けて論じている。
	e ③ 幅広く本や文章を読み、書き手の意図を捉え、読み味わうことによって自分なりの考えをもつようになっている。	・「説話」に込められた人間理解、世界観と自分自身の価値観とを関連付けて論じている。

【資料2】「児のそら寝」脚本執筆のためのワークシート（第2次）

「児のそら寝」朗読劇脚本
 ※①から⑩を参考にして、⑥以降のト書きと⑪からのせりふを創作しよう。
 伝えようとしていることが、聞き手に伝わるようにト書きやせりふを工夫しよう。

No.	本文	ト書き	せりふ
①	今は昔、比叡の山に児ありけり。	・鐘の音などがするとよい。 ・板張りの広い部屋に僧たちが集まっている。 ・児は部屋の隅でうつらうつらしているという設定。	僧1 「あの子をみてごらん。寝床も敷かないでうたたねしてるよ」 僧2 「まったく子どもはどこでも寝るもんだ」 僧3 「疲れてるんだよ」 僧4 「そうだな。まだまだ小さいのにこの広い寺の中を駆け回っているんだものな」
②	僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、	・僧たち、座る。 ・僧5はやんちゃな感じ。 僧3は分別のある感じ。	僧5 「どっこいしょ。まだ寝るには早いが、することもないな」 僧3 「学問に終わりはないぞ」 僧4 「うるさいことを言うなよ。今日の修行はいつもに増して厳しかった。たまには息抜きもな」 僧5 「そうだと。明日もしっかり頑張らなきゃいけないんだから、元気をつけるために、ぼたもちでもつくろう」 僧1 「ああ、それはよい。おい、みんな、一緒に作ろう」 僧3 「たまにはいいか」 僧2 「おれは大きいやつを作るぞ」 僧5 「おれもだ」
③	この児、心よせに聞きけり。	・児の声は高めの声で子どもらしく。独白は小さめの声で表現する。 ・児が会話に加わっていないことを表現するために、他の僧たちは互いの発言を受けて発言し合う。 ・僧たちは急に作ることになったぼたもちの材料集めに夢中になっている。	児 （独白）「お坊さんたちがぼたもちを作ろうとしている。うれしいな。僕も分けてもらえるかな。楽しみだな。お腹が鳴りそうだ」 僧5 「さあ、米を研ぐぞ。おまえたちは小豆のあんもできるかな」 僧2 「急には無理だよ」 僧4 「ここに、明日のために煮たのがあるぞ」 僧5 「よし。明日のを今から準備して、そっちのを今からちょっと借りておくことにしよう」 僧1 「足りない分は大豆を煎ってきなこを作ればいいな」 僧2 「よし。豆をもってこよう」

④	さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、	・最初はそわそわした感じ、 「いい匂い」のところはうっとりした感じで表現。 ・独白なので小さめの声で表現する。	児	(独白)「すごく楽しみだけど、できあがるのを待って、今日に限って寝ないでいるのも具合が良くないだろうな。どうしよう。ああ、あんこの煮えるおいしそうなおいが……。お豆さんを煎るにおいて、なんて香ばしい」
⑤	片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、	僧たちが夢中になって盛り上がりしている様子を表現する。	児 僧4 僧5 児 僧1 僧2 僧1 僧2 児	(独白)「じゃまにならないように、寝返りのふりをして隅っこに寄ろうかな。よいしょ。ああ、おいしいにおいだ。早くできあがって、誘ってくれないかなあ」 「おっ、小豆もふつついつてきたぞ」 「もっとしっかり つぶしておけよ」 (独白)「ああ、良いにおい」 「おい、熱いうちに粉にひくぞ。臼をもつてこい」 僧2 「もうここにあるよ」 僧1 「よし。豆を落とすぞ。臼を回せ」 僧2 「よし。どんどん入れろ」 児 (独白)「ほくもお手伝いしたい」
⑥	すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。	(以下のト書きはグループで書き足すこと)	僧5 僧1 僧4 僧2 僧5	「さあさあ、できたぞ」 「むむ。それでは、器に並べよう。うまそうだな」 「おお、こいつは俺が食べるぞ」 「それでも良いが、こいつも大きいぞ」 「それでは、皆でいただくか」
⑦	この児、さだめておどろかさむすらむと、待ちぬたるに、		児	(独白)「私にもきっと声をかけてくださるだろう。ああ、温かな湯気、良いにおいだなあ。お腹が鳴るよ。早く起こしてほしいよ」
⑧	僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、		僧3 僧4	「その前にさて、幼い方も起こしてさしあげよう」 「ああ、そうだな。もしもし。お目覚めなさいませ。あなたの分もここにありますよ」

⑨	うれしとは思へども、		児	(独白)「ああうれしい。やっぱり起こしてくれたよ」
⑩	ただ一度にいらへむも待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへむと、念じて寝たるほどに、		児	「う〜ん。むにゃむにゃ。ぐう」 (独白)「でも、一回でぱっと起きてしまって、なんだか出来上がるのを待ってたみたいに思われたらいけないな。今回は寝たままで、もう一度呼ばれてから返事をしよう。さあ、がまんがまん」 「むにゃむにゃ」
⑪	「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入りたまひにけり。」と言ふ声のしければ、			
⑫	あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかしと思ひ寝に聞けば、			
⑬	ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、			
⑭	すちなくて、無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、			

⑮	僧たち笑ふこと限りなし。			
⑯	（「笑い」の後の僧たちと児のやりとりを想像してみよう。）			

★以下の点も脚本化の参考にしよう。

①……もとのせりふは一人だが、周りの僧の言葉も想像してみよう。

②……児の心情を独り言にしてみよう。

③……「むしゃむしゃ」以外に、食べている雰囲気やせりふで表現してみよう。

④……「ずちなくて」の心情を独り言として表現しよう。

⑤……僧たちの笑いっぷりを何人かの言葉として表現しよう。

⑥……児は食べながらと思われる。どんな気持ちだろうか。また、僧たちは児にどんな言葉を掛けているだろうか。

【資料3】「児のそら寝」脚本評価シート（第3次）

「児のそら寝」朗読劇脚本評価シート
 (1) 朗読劇について評価します。
 ※自分たちのグループの内容理解と、表現意図を記入する。
 ※他のグループの発表を聞き、評価を記入する。

班	僧たちは児の「狸寝入り」に気付いているか。	⑪の発言の声の大きさ	⑫の笑いに込められている心情	古語の口語訳のしかたで気になった箇所	特に工夫の感じられた（工夫した）ところ	総合評価 A～E
1班						
2班						
3班						
4班						
5班						
6班						

(2) 「児のそら寝」の学習を通して学んだことを振り返りましょう。
 ※グループの話し合いを通して、この説話が「伝えようとしていること」はどんなことだと考えましたか。

